

平成22年度第4回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会
5大がんクリティカルパス運用ワーキンググループ議事要旨

日時：平成22年3月2日（水） 19:00～20:30

場所：琉球大学医学部附属病院 管理棟3階 大会議室

構成員：40名

出席者：27名

上地 博之（北部地区医師会）、平良 豊（浦添市医師会）、喜納 美津男（那覇市医師会）照屋 淳（医師会病院）、仲村 実和子（医師会病院）、上田 真（中部病院）、古謝 和美（中部病院）、宮里 浩（市立病院）、友利 寛文（市立病院）、宮国 孝男（市立病院）、外間 尚美（市立病院）、佐久川 廣（ハートライフ病院）、長嶺 信治（那覇西クリニック）、池村 富士夫（同仁病院）、宇良 正一郎（同仁病院）、我如古 幸蔵（南部徳洲）、大嶺 靖（沖縄赤十字）、志良堂 清憲（沖縄赤十字）、下地 英明（琉大病院）、白石 祐之（琉大病院）、照屋 孝夫（琉大病院）、佐村 博範（琉大病院）、國仲 弘一（琉大病院）、新垣 久美子（琉大病院）、武富 孝子（琉大病院）、増田 昌人（琉大病院）仲本 奈々（琉大病院）
陪席者：呉屋 葉子（がんセンター）

1. 平成22年度第3回5大がん地域連携パス運用ワーキンググループ議事要旨（資料1）
平成22年度第3回5大がん地域連携パス運用ワーキンググループ議事要旨が承認された。
2. 5大がん地域連携クリティカルパス事業の申し込みについて（資料2）
新たに、専門施設に1病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センターが追加されたことが報告された。
3. かかりつけ施設が受け入れ可能な範囲を把握するためのアンケート調査について
医師会と共催で、かかりつけ施設にアンケート調査を行うよう進めていることが、報告された。
4. 各施設での地域連携パス適用事例について
那覇市立の宮里委員より、現在パス適用事例が19例あり、内訳としては、乳がん8名、大腸癌6名、胃がんが5名であることが報告された。消化器に関しては、適用となった患者さんには、もともと通院していた医院ではなく、連携先の医院で診て頂くようにしていることが報告された。
5. 県民健康フォーラムでの発表、市民公開講座での発表について
宮里委員、増田委員より、県民フォーラムと市民公開講座でクリティカルパスについて医療者および一般向けに広報を行ったことが報告された。
6. 医師会HPに5大がん地域連携クリティカルパス協力医療機関の募集・応募方法の掲載について
6つの医師会HPに沖縄県5大がん地域連携クリティカルパス協力医療機関の募集・応募方法を掲載したことが報告された。

[協議事項]

1. 次年度の研修会の開催方針について
各地区や希望される医療機関で、年に10回を目標にがん地域連携クリティカルパス研修会を企画開催する。今まで通り、拠点病院、支援病院、医師会で研修会を行うことに加えて、申し込みがある専門施設にも、院内研修会をしていただくよう依頼があった。

2. 地域連携パスの活用のための方策について

琉大でパスが運用されていない理由について、2010年4月～12月までの下部消化管発癌症例で検証を行った。

パスにのらない原因としては、紹介元のクリニックが癌の診療をしていないこと、要化療、準備不足、稀な症例、当院通院中、パス不足、かかりつけ医なし、などが挙げられた。

東京などの都心部はともかく、パスの様式に書き込む手間を考えると、自分たちの病院で診た方がいいのではないかと意見があり、佐村委員より、クリティカルパスは患者さんに安全で質の高い医療を提供することと、専門医とかかりつけ医（開業医など）と治療経過を共有するためのツールとしてあるものであり、すべての患者さんに適用する必要はないが、患者のニーズに合わせて適用して欲しいと依頼があった。

また、診療計画表・経過表に毎月記載するところがあるが、その通り毎月検査して記載しないといけないわけではなく、便宜上枠を設けている事が報告された。

実際にパスを適用してみて、今の様式に不便などを感じたら、作成ワーキングで改訂を行うことになった。

3. 私のカルテと療養手帳の済み分けについて

増田委員より、患者必携事業について説明があった。

がん患者の支え事の助けとなることを目指して、①がんになったら手に取るガイド、②わたしの療養手帳、③地域の療法情報、3点セットを作成したことが報告された。

私のカルテと療養手帳の違いは、私のカルテは患者さん自身が記載する所もあるが、主に専門施設、かかりつけ施設の主治医が記載することに対し、療養手帳は患者さん本人が記載して持ち歩くものである。今後、療養手帳は一般的にどのがんでも適用できるようにし、私のカルテはがんごとに特化したものにするよう計画していることが報告された。

4. 離島の委員の旅費負担について

離島の委員には、これまで地域医師会の予算で参加して頂いていたが、今後、WGに参加するための飛行機代は部会の予算で負担してはどうかと意見があり、承認となった。

5. 運用WGの開催回数について

今後は各施設での取り組みが重要なことから、年に4回の運用WGの開催を年に2回に変更してはどうかと意見があり、承認された。

6. 次回の開催について

事務局より、次回の5大がんクリティカルパス運用ワーキングの開催は9月7日（水）を予定していることが報告された。